



12月度の御書

「阿仏房尼御前御返事」

ますます信心にはげんでい
きなさい。仏法のことを人へ
語つていくと、あらゆる人が必
ずにくむだろう。よし、にく
むなら、にくむがよい。

意味

いよいよ信心をはげみ給
うべし。仏法の道理を人に
語らん者をば、男女僧尼
必ずにくむべし。よしにく
まばにくめ

御文

(御書新版730ページ 御書全集1308ページ)

何があってもおそれずに！ しし王の心で

やあ！ ライオン博士のキング君だよ。今年も残すところ、あと1カ月。一年のしめくりも、みんなで日蓮大聖人のお心を学んでいこう！

大聖人が生きていた約800年前の日本では、争いや大きな地しん、病気などで苦しんでいる人がたくさんいたんだ。その中で、大聖人は「一人ももれなく幸せにするのだ！」と誓いを立て、行動を開始された。「南無妙法蓮華経」こそ、人々を幸福に導く最高の法であると、あらゆる人に教え広めていかれたんだよ。

ただ、多くの人は、誤った教えを信じていて、正しいことが何なのか迷い、分からなくなっていた。だから大聖人の正しい言葉を信じられずに、悪口を言ったり、大聖人をにくんで、命をうばおうとしたりする人もいたんだよ。

だけど大聖人は、むしろ“よし、にくむなら、にくむがよい”と、何ものにも負けぬ「しし王の心」で、自分の誓いを貫いていかれた。たとえ反発や、はく害があっても、大聖人は、それ以上に強く大きな心で、人々の幸せのために祈り、仏法を語り続けたんだよ。

その大聖人の心を受けつぎ、人々の幸福のために行動しているのが、ボクたち創価学会なんだ。

ボクのおばあちゃんは若い時、お友だちにすすめられて、この信心を始めたんだって。最初は、信心すること周りの人たちに理解してもらえなくて、つらい思いをしたこともあったみたい。けれども池田先生のはげましを胸に、お題目をあげ、数々の苦勞を乗り越えてきた。今では、たくさんの家族やお友だちにかこまれて、笑顔いっぱいの日を送っているよ。

ボクのおばあちゃんにかぎらず、みんなの周りにいる創価の先ぱいたちも、勇かな「しし王の心」で信心を貫き通して、最高の人生を切り開いてこれたんだ。

池田先生は語られているよ。

『しし王』は、どんな強い相手にもおそれません。何があっても、おそれずに前進していきます。この一番強い『しし王の心』が、みんなの生命の中にあります。それを『取り出す』力が題目です。『南無妙法蓮華経』は、何ものにも負けぬ『しし王の心』をあらわした名前です。

ししの子のみんなも、「しし王の心」を受けつぎ、自分の道を堂々と歩みぬいていこう～！